



感染者の動向

累計感染者数

4,846,427人

累計死亡者数

79,722人

累計回復者数

3,780,107人

新規感染の傾向

↑ (増加傾向)

9月14日現在の数字 ※出所：インド保健・家庭福祉省



行動・活動制限

活動制限

あり ※緩和傾向

実施主体

内務省、各州政府

具体的制限

- 感染者が集中する封じ込めゾーンは引き続きロックダウンを継続（9月30日まで）。それ以外の地域は段階的ロックダウン解除を進める。

日本人学校

- ・休校中（オンライン授業のみ。9月30日まで）。



空港再開／直行便

空港

再開（国内線のみ）

日本からの直行便

3月22日から国際民間旅客航空便着陸停止（9月30日まで）。JAL・ANAは10月末まで一般商用旅客便の運休を発表。JALは貨物便を週2便程度運行。



日本・海外からの入国制限

日本人の入国

限定的に可

外務省渡航情報

レベル3：渡航は止めてください（渡航中止勧告）

制限措置・入境後の隔離措置等の概要

- ・ 非定期商用便またはチャーター便によってインドへ渡航する就労目的の外国人は入国可能。
- ・ インド入国後、最初の7日間は政府指定施設での隔離措置、その後更に7日間の自宅等での自主隔離が義務付けられる。8月8日以降、旅行から96時間以内に実施されたPCR検査での陰性証明書を提出すれば指定施設隔離が免除される。
- ・ 8月28日の日本からのチャーター便では約8割が陰性証明を提出。入国は極めてスムーズだったとのこと。



経済活動再開の状況

経済活動制限

主要規制・制限

3月25日に始まったロックダウンは3度の延長を経て5月31日に終了。6月1日以降、感染拡大が著しい「封じ込めゾーン」を除き、各種制限が段階的に解除された（Unlock）。9月1日からUnlock 4.0が開始される。9月7日からはメトロの運行が、9月21日からは教育機関の一部（9学年～12学年まで等）が再開可能とされる。映画館や娯楽施設の営業や、国際線一般旅客機の運航は引き続き禁止。

再開基準

インド内務省は8月29日、段階的ロックダウン解除（Unlock4.0）にかかる通達およびガイドラインを発出。メトロや学校の一部などが解禁された。また、封じ込めゾーン以外で州政府が中央政府への事前の相談なく独自にロックダウン措置を講ずることが禁止された。

【Unlock4.0から制限解除される施設・活動】

- ・ メトロの運行（9月7日以降）
- ・ 9年生～12年生（日本でいうところの中学3年生～高校3年生）の通学など、一部の教育機関（9月21日以降）
- ・ 100人までの集会（9月21日以降）
- ・ オープンエアでの劇場運営（9月21日以降）

【Unlock4.0において引き続き禁止の施設・活動】

- ・ 内務省から特別な許可を得た国際線旅客機以外の一般旅客機の運航。
- ・ 映画館、スイミングプール、エンターテインメント施設、劇場

現地産業・企業の動き

- ・ インド自動車工業会（SIAM）が8月の自動車販売統計を発表。乗用車（UV、バン含む）の販売台数は21万5,916台で、前年同月比14.16%増となった。
- ・ 二輪車の販売台数は155万9,665台と、こちらも前年同月比3%増となった。

ニューデリー事務所長
村橋 靖之

戻りつつある日常の風景

先週からメトロが再開した。まだ乗客数は少ないものの、街の景色の中にメトロが走る姿が戻ってきた。飲食店もイート・インを始める店舗も徐々に増えている。9日からレストランでの酒類提供が可能になったので、週末、デリー市内の人気レストランに行ってみた。SOPで席数を5割位に制限していたが、食事を楽しむインド人で何と満席！コロナ以前のように、外でビールやワインとともに食事ができるまで約半年。思えば長い道のりだった。。。



現地日系企業の活動状況

現地日系企業の抱える課題

操業状況

- 日系四輪、二輪各社は、5月以降順次生産を開始、6月中旬よりすべての企業が生産を開始した。同時に販売店も再開、オンラインでの販売も開始するなど6月になってようやく売り上げも立つようになった。8月の販売台数は乗用車・二輪車どちらも前年同月比プラスに転じた。しかし、こうした回復が継続するものなのか一時的なものなのか見極める必要はあり、政府にはGSTの減免などの需要刺激策を期待する声が多い。
- デリー、グルグラム近郊では日本食レストランのイートイン営業が少しずつ再開されてきた。デリーでは、9月9日から酒類の提供も可能になった。

サプライチェーン、物流への影響

- 新型コロナウイルスの影響でトラックのドライバーが帰郷してしまい、トラックの稼働率が低下。コストも増。
- 日系物流企業へのヒアリングによると、船便は7～8割程度に回復しているものの、港湾作業員や税関職員の不足により通関には引き続き時間を要している。

現在抱える課題、懸念

- 工場再開、営業再開により、喫緊の資金繰り悪化時期は過ぎたが、引き続き大きな懸念事項。また、感染者数増加の中で、従業員への感染例が急増しており、感染対策と感染拡大防止のための標準作業手順（SOP）遵守による生産性の低下は継続。
- 生産活動が平常化する中で、労働力の確保が引き続き大きな課題になっている。
- 現地での経済活動が再開しているため、日本人駐在員を戻したいという声や技術者を派遣したいという声はあるものの、感染は拡大の一途をたどっており医療体制への不安はぬぐえない。また、現時点では商用一般旅客便の運航も再開されていないため、臨時便やチャーター便の運航が唯一の手段。9月は、日本航空により、デリー発羽田便が16、30日に、羽田発デリー便が25、29日に運航される。
- 一方、一時退避の予定だったが日本での滞在が当初の想定以上に長引き、税務リスクや人員配置を考慮しそのまま帰任扱いになるという駐在員もでてきている。



注目のトピック

デリーメトロ再開ー運営は手探りー

- 9月7日、インドの首都デリーでメトロの運行が再開された。標準作業手順（SOP）に沿って運営がなされている。まだ全線開通ではないこともあり、利用している人はそれほど多くはない。ソーシャルディスタンスを確保するための空席確保、荷物への消毒などが取り入れられた。



↑ 席を空けて座るよう促すステッカーが座席に貼られている。



↑ 車両内の様子。



↑ 消毒液を噴射される荷物。

※いずれも9月11日ジェトロ撮影



ジェトロからのお知らせ

アジアにおける新型コロナウイルス対応状況

ジェトロウェブサイトにて新型コロナウイルス関連ニュース、動画によるワンポイント解説、アジア各国の企業などに対する支援策を紹介。

<https://www.jetro.go.jp/world/covid-19/asia/>

新型コロナウイルスに関するお問い合わせ

(国内)
新型コロナウイルス相談窓口

TEL : 03-3582-5651

(平日9時～12時/13時～17時(土日、祝祭日を除く))

(海外)
最寄りのジェトロ事務所まで
お問い合わせください